IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE 46

平成１４年
１０月１５日 発行

特集

地域に根ざす
地元の方との交流

海外研修活動

発行：
学校法人国際医療福祉大学
編集：
広報委員会
TEL 0287-24-3000
内線 8116
ホームページアドレス
http://www.iuhw.ac.jp/
E-mail：media@iuhw.ac.jp

特集 地域に根ざす

本学も開学八年目を迎えました。
今回の特集は、地域の方々との交流を紹介します。

大田原市与一祭り
～与一祭りに参加して～

▶地域の方との交流を目的に、学生会が参加

八月二・三日と「与一祭り」に学生会としてイベントに参加してきました。売店で飲み物とコロッケの販売、そしてバルーンアートを作って子供達に配りました。

炎天下の中行われたお祭りは大勢の人で賑わい、二日分用意していた飲み物が一日で完売するという大盛況ぶり。二日目は初日以上の売上でした。なかでもバルーンアートは子供達に大人気で私たちはちょっとした人気者。風船を渡すと照れくさそうにしている子・素直に喜んでくれる子など様々でしたが、その一人一人の返してくれる反応がとても可愛らしく「頑張ろう！」という元気を与えてくれました。暑さから風船が割れやすくなってしまったり、夕立で看板が駄目になってしまったりと色々な問題が起きては、仲間やお客さん・その他手伝ってくださった方々の言葉や行動が何よりも心強く感じられました。多くの人に支えられ成功できたと思います。

学生会のメンバーがこのイベントを成功させるために、各々が意見を出し合い試行錯誤を重ね、二日間無事に終えることができました。メンバーそれぞれ色んなことを感じたと思います。私自身も「一つのこと」を成し遂げたことによって、学年・学科などの隔たりを取り除き、より一層の団結力を養えたことを嬉しく思っています。このことが私たちを前進させる大きな一歩となることでしょう。来年もぜひ参加したいと思います。

（学生会会長　医療福祉学科二年　和田芳枝）

▲与一祭りの目玉、武者行列直前に学生参加者全員で記念撮影

ビーエスピー・カフェ bsp cafe
～大田原市商店街にカフェをオープン～

▶営業中の店内、とてもおしゃれな空間です

つまるところの話、みんなが集まれる場所を作りたかったのです。ここbsp cafeは、おしゃれな大学生活と楽しい人生を歩んでいくためのいろいろな要素がつめこまれている、ラウンジ系くつろぎスペースです。店内は広くなく、ちょうど落ち着けるつくりになっています。音楽はジャズっぽいのが好きで、最近はエゴラッピン、PEZなどをかけてます。

営業は平日一八時半から二十二時まで。土日は一二時からやっています。（休憩一七時～一八時）定休は月曜、木曜。（次の日の授業がみんな1限からなので。）ちゃんと授業のことも考えています。この集まりは、カフェサークルとしても活動しております。これは、栃木中、日本中のカフェを旅して回る、旅サークルです。まだ忙しくて活動できていませんが、興味のある人はどうぞ。名前とメールアドレスなどを登録しておけば、旅立つときに知らせます。他にもカフェ情報や、bsp cafeでのイベントの情報（最近はbsp cafeジャズライブなど）も同時に配信するbsp cafe mailをただいま構築中です。カフェのスタッフはもちろん全て学生。二年生以下の人、カフェスタッフ随時募集中です。サークル（これは学年問わずメンバー募集中。）と合わせると、現在、総勢四十人近くいます。ほとんどの学科からスタッフ、サークルメンバーが集まり、なかなか盛り上がっています。サークルのメンバーの人、なかなか活動できなくて申し訳ないです。今プランを考え中なので、もう少し待っていてください。

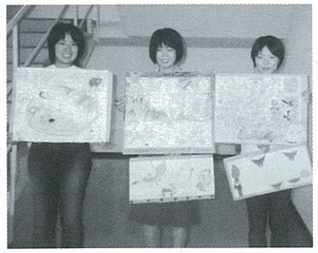
さて、カフェサークルまたはカフェスタッフの募集、問い合わせにつきましてですが、専用メールがあります。（bspcafe@hotmail.com）一日一回のメールチェックですので、即答はいたしかねますが、いつでもどうぞ。これからも、bsp cefe、カフェサークルをよろしくお願いします。

（bsp cafe 代表　看護学科二年　石山　学）

▶みなさんぜひご来店下さい。スタッフ一同お待ちしております。

平日 18：30 から 22：00 まで。
土日は 12：00 からやっています。
（休憩 17：00 － 18：00）定休は月曜、木曜
e-mail　bspcafe@hotmail.com
TEL　0287-23-4455

学習障害をもつ子供たちと活動する
～学生ボランティア「たんぽぽ」～


▶八月の定例会の作品

学習障害（LD）を持つ子供たちの親御さんの集まりである、とちぎ県北LD児（者）及びその周辺児をもつ親の会「たんぽぽ」があります。学生ボランティア「たんぽぽ」は、三年前、託児ボランティアとして親の会「たんぽぽ」に参加したのを始まりとして今まで続いています。たんぽぽの子供たちは十一名おり、その兄弟も一緒に参加しています。

活動は月一回の定例会（土曜）と特別活動があります。定例会は、皆の前で意見を発表する学級会形式で行い、特別活動ではスポーツレク、フリーマーケット（昨年）などを行いました。前回の八月の定例会では、夏にちなんだ絵を描いたり、折り紙を紙に貼り付けたりし、それを皆の前で発表してもらいました。最初はまるで乗り気でない子が課題に熱心に取り組み、恥ずかしがりながらも発表している姿をみると嬉しくなります。七月のスポーツレクは大学の体育館をお借りし、手つなぎ鬼や二人三脚、玉入れなどを行いました。子供たちから、今度は騎馬戦や綱引き、缶つみ競争などをしたいという意見があり、後期に第二回目のスポーツレクを行うことも考えています。

活動前には活動に向けての課題作成、活動後には反省会をしており、そのため月二～三回のミーティングがあります。今後の活動として、子供たちを大学祭に招待することやクリスマス会、アニマルセラピーなどが予定されています。月一回と活動数は少ないですが、子供たちの自主性を引き出し、やればできる自分を発見することを全体の目標としています。子供たちがこの会を通して、どんな小さなことでも自信を持つことができればと考えています。

子供たちと接する中で学生自身が勉強させてもらっています。LDのお子さんのみならず、親御さんと共感できる場としても有意義な場です。学生のメンバーはST学科の学生十六名でほとんどが三年生ですが、後期に一、二年生を募集したいと考えています。興味と熱意のある方は是非入ってください。

（言語聴覚障害学科三年　原由美子）

▲「たんぽぽ」のメンバーです。私たちと一緒にボランティアに参加しませんか。

エンプロジェクト
～共に生きる社会を築くために～

▶大田原市内を題材にした手作りの絵葉書

国際医療福祉大学の理念である「社会に開かれた大学」作りを推進するために、学生主体に活動していく団体です。大学からサークルとして認可を受け、地域に根ざした活動を展開しています。

エンプロはエンジョイ・那須・企画という事で、那須のすばらしさを共有し、発展させるためにイベントなども開催しています。

また、エンとは人の縁、人の円・和・輪（サークル）を広げることを意味しています。

私は、人はそこに存在していること自体、自己表現していると考えます。その表現は世界にたったひとつのあなただけの表現であり、それを意識してよりアグレッシブに表現することで、人生はより輝きを増し、自己実現できると考えています。ゆえに、この会はあなたの主体性を強く求めます。あなたが主役なのです。私たちと共に喜びを分かち合いましょう。

活動内容としては、
①ヒューマンアカデミーの勉強会
②クリスマスパーティ
③社会貢献（大田原市商店街の清掃、宇都宮駅トイレ掃除等）
④農業体験ツアー
⑤与一祭り参加（焼きそば模擬店出店）

等々多彩です。

ヒューマンアカデミー「元気」の出る勉強会の今後のテーマを紹介します。

十月二十二日
「驚愕！モノ作りとロボット」
十一月五日・十八日
「創るぞ、自分のライフスタイル」
「伝統と新しい技術の融合」
十二月二日・十六日
「悲劇！リーダー不在の組織」
「ありがとう！二〇〇二年」
一月六日・二十日
「地球活性化の謎！」
「管財学と民の役割！」
二月
「福祉のある街！住みよい町！」
「創ろうよ、世界に自慢できる街を！」

※テーマは、変更することがあります。
※日程及び場所は、講師及び会場の都合により変更することがあります。講義中に次回以降の日程等をご連絡します。一度気楽にのぞいてみてください。お待ちしています。

（エンプロジェクト代表　看護学科四年　高橋正朗）

▲スカイパーフェクTV「大学アワー」に出演時に、手作りの絵葉書についてのエピソードを話していただきました。

思い出の挙式を
～カフェテリアで手作りウェディング～

九月二十二日、大学カフェテリアに純白のドレスを身に纏った女性とタキシード姿の男性が現れました。これには偶然通りかかった学生さんもびっくり。実はこの日、本大学言語聴覚障害学科第一期卒業生の横田大（ひろし）さんと垂水早吾子（さわこ）さんの結婚式がカフェテリア二階を会場に行われたのです。

二人は七年前の大学一年生の時から交際を始め、この度めでたくゴールインとなりました。二人とも下宿生活で、地元の人たちに見守られて愛をはぐくんだことから「思い出の地で挙式を」という二人の希望で、友人らが発起人となり式の準備を進めてきました。大学で行われる初の結婚式ということで、色々工夫しながらでしたが、大学やカフェテリアの協力のもと、無事準備が整いました。式では二人の恩師である伊藤元信言語聴覚障害学科長が神父役にあたる立会人を務め、家族や友人ら約九十人が集まって、二人の門出を祝福しました。暖か味のある式で、ご両親をはじめ、出席なされた方皆さん喜ばれていました。

これを機に今後大学で、第二、第三の手作りウェディングが行われるかもしれませんね。

（言語聴覚障害学科一期生　伊藤　智彰）

▲大勢に見守られ指輪の交換

イングリッシュ　イブニング

今夏も、英語公開講座「イングリッシュイブニング」が、七月二十四・二十五・二十六日に開講されました。今年は初心者クラス(true beginners)が増設され、四クラスになり、六十名あまりの参加を考慮して、開始を三十分遅らせ、六時半から八時半までとしました。五分間の小休憩をはさんだだけのきついスケジュールでしたが、各クラス、それぞれに熱の入った英会話レッスンが繰り広げられました。今年のテーマは「那須高原の観光めぐり」。馴染み深いテーマだけに、あれもこれもと会話が弾みました。

なにより注目されたのは新設の初心者クラスでした。会話というよりは、美しい英語の発音を目指して九名が頑張りました。小学生四名、中学生二名、大人三名のグループでしたが、担当教員も、元気な小学生に引っ張られて、「英語学習って、こんなに楽しいものだった！」と、ン十年前、初めて英語に触れた時の感動を想い出しました。児童の英語の音に対する感覚・感性が素晴らしい刺激となりました。小さな写真の中ですが、大きな笑顔が見えるでしょうか？杜人君、純平君、あずさちゃん、良介君、大きくなっても英語を好きでいてくださいね。

運営担当の総務課の皆さんのおかげで、三日目の夜のparty も含めて、参加者全員が確かな手ごたえを得ることのできた公開講座になりました。加えて、おみやげにメディア室からクラス写真がひとりひとりに配られ、とてもいい記念になりました。Thank you all!

（語学教育センター　南井紀子）

▲はじめに語学教育センターの先生方から受講者に挨拶がありました。

▲講義は先生方の丁寧な指導の下に行われました。

▲初心者クラスは、基礎である発音を勉強

▲最終日のパーティーで、講義で習った英語を披露

おおるり会
第四回卒後研修会・総会開催

去る八月三・四日、言語聴覚障害学科同窓会おおるり会の第四回卒後研修会・総会が開催されました。在校生を含め二一一名の会員が参加しました。初日の学術講演では、初めて外部から講師を招き「ＡＡＣとその適合」というテーマでご講演頂きました。ＡＡＣの基本から様々な機器の紹介、事例を交えた内容で、大変有意義なものでした。またＡＡＣ機器の展示も行われ、実際に触れながらお話を伺えました。総会終了後の懇親会では、懐かしい顔ぶれが集い近況報告、結婚やオメデタ報告に会場は大いに沸きました。

二日目の症例検討会では、一期・二期・三期生より「高次脳機能障害を呈した一症例」「一酸化中毒後遺症により同語反復と吃様症状を呈した一例ー症例の発話特徴の分析ー」「食道発声者における単語明瞭度検査（簡略版）の利用」の三演題の発表がありました。質疑応答も活発に行われ、日々の臨床での悩みに対し解決の糸口を探ろうとする意欲が感じられました。

四回目を迎えた研修会も、年々形が整いより充実していると実感します。第五回卒後研修会も、会員一丸となり、より良いものを創りあげていきたいと思います。

（言語聴覚障害学科　一期生　鬼越美帆）

スイミングボランティア活動

▲子ども達と一緒に

ボランティアグループ「青い鳥」で、毎月第二、四土曜日に「プールボランティア」を行っています。内容は県北地域に住んでいる自閉症をはじめとする障害を持っている子どもたちが、プールに入ることで気持ちをリフレッシュさせたり、運動するお手伝いをしています。

最初、子どもたちは水にはいることに対して恐怖感を持っていて、なかなか水の中に入ろうとしない子どもや、てんかん発作やパニックに陥ってしまう子どももいました。しかし、現在では顔を水につけるなど、子どもたちの成長を間近で見ることができ、私達も学ぶことが多くあります。

（医療福祉学科二年　青柳裕行）

～国際医療福祉病院だより～

国際医療福祉病院では、さる八月二十四日(土)に竣工記念祝賀会を開催させていただきました。当院は、本学学生ボランティアにもお手伝いいただき、本年二月一日(金)に現在の旧館から本館へ引越しを行い、翌二日(土)より診療機能の多くを移行して診療を行ってきました。しかし、その後も産婦人科などの新しい診療科の開設、事務部門の旧館への移設、さらに実習時に本学の学生が利用する研修棟が完成したため、もって本会開催の運びとなりました。

当日は高木邦格理事長、谷修一学長、佐藤郁夫病院長のご挨拶に引き続き、西那須野町の平山武町長をはじめ栃木県医師会などからご祝辞を賜りました。式典会場となった病院一階総合待合いホールはまさに立錐の余地もないほどのお客様をお迎えし、また、会場の外でもハワイアンバンドなどのアトラクションが祝賀ムードを盛り上げていました。最後は盛大に花火も打ち上げられ、盛況のうちに会を終了することができました。

国際医療福祉病院は本学の臨床医学研究センターとしての機能を果たしていくことはもちろん、今後も地域に開かれた病院として弛まず努力を続けてまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

▲鏡割りが行われました。

第八回日本摂食・嚥下リハビリテーション学術大会

▲伊藤学会長による開会の挨拶

九月六日、七日の二日間、栃木県総合文化センター(宇都宮市)において第八回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会が開催された（大会長・伊藤元信）。参加者は二千人を超え、医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、栄養士、歯科衛生士、介護職など多職種に渡っていた。

今回は、「摂食・嚥下リハビリテーションにおけるチームアプローチ」のテーマのもとに、多くの特別演題が企画された。教育講演は、新美成二先生に「嚥下の解剖と生理」、初山泰弘先生には「新しい障害分類とチームアプローチ」と題して講演して頂いた。シンポジウム「摂食・嚥下障害の食事」では、専門家だけではなく、摂食・嚥下障害を実際に体験された方や障害を御持ちの方のご家族からも貴重なお話を伺うことが出来た。

招待講演は、摂食・嚥下リハビリテーションの先進国であるアメリカから三人の先方をお招きし、Robert M. Miller 先生には、摂食・嚥下障害の臨床評価について、Jacqueline B.Frazier 先生は小児の摂食・嚥下障害の見方について、Susan E.Langmore 先生には摂食・嚥下障害の内視鏡による評価について各々講演して頂いた。パネルディスカッションでは、招待講演の先生方も交えてテーマであるチームアプローチについて、国際的な討論が行なわれた。

また、ラウンドテーブル・ディスカッションでは、「摂食・嚥下リハビリテーションの卒前教育」の問題が取り上げられ、これは本学会学術大会では初の試みであった。

さらに、二日目の学会終了後には八つの技術セミナーが企画され、延べ千百人が受講した。八つのうち六つは、少人数制で「演習形式」を取り入れた内容であり、参加者に好評であった。

一般講演は百三十三題の発表があったが、特に「訓練指導」に関するセッションでは、多くの聴衆が詰めかけ、活発な討論が行なわれた。

今大会は、様々な職種の参加者それぞれが「摂食・嚥下リハビリテーション」について改めて考える良い機会となったのではないだろうか。

（言語聴覚障害学科　今井智子）

アジアの地域医療　日本そして世界から
国際保健協力フィールドワーク　フェローシップに参加して

▲知り合った現地の方たちと

私はこの夏に、国際保健協力フィールドワークフェローシップに参加し、保健医療の国際協力、また医療や貧困について考える機会を得ました。フィリピンでは、ＷＨＯ西太平洋地域事務局やＪＩＣＡマニラ事務所を訪れ各機関の重要性について認識し、病院や施設では医療システムを視察し、地域の保健に対する取り組みを学びました。またスモーキーマウンテンの貧しいこども達とのふれあいやフィリピンの医学生達と、交流もあり、貴重な経験をすることができました。後輩の皆さんもぜひ、目的意識をもって参加して頂きたいと思います。

（作業療法学科四年　鳥羽　肇）

第二十三回アジア医学生国際会議（ＡＭＳＣ）に参加して

▲ＡＭＳＣ会場にて

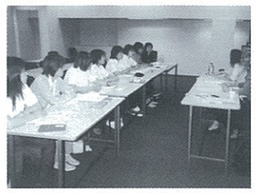
約三百人の参加者（内、約二百名が海外から）を集めて八月四日～十一日に、アジア医学生国際会議が自治医大で開催されました。アジア各地からの医学生と医療学生が「アジアの地域医療」というテーマで、アジア諸地域の医療の現状を捉えながら医療問題について討論を行い、また、キャンプなどを通して交流を深めました。ＩＵＨＷからは十五名程が参加し、ハイライトとなったキャンプを企画・運営し、友情の輪を広げることが出来ました。短い期間でしたが、医療の現状や問題点を学び、また、組織運営の難しさも体験しました。

（看護学科二年　村越克広）

2002 海外研修・ボランティア活動

海外保健福祉事情

オーストラリア



▲オーストラリアの医療福祉事情の授業風景

「毎日が発見」

オーストラリアでは毎日が新しいことの連続だった。医療・福祉現場の見学ではホスピスや痴呆病棟の様子など、熱意あるスタッフの話も聞けて新たな視点を学ぶことができた。楽しみにしていたホームステイでは、スペインの少年や台湾の夫婦も一緒だったので、いろいろな国の人とテーブルを囲みながら話をすることができ、異なる文化に触れ、とても良い刺激を受けた。オーストラリアで出会えたたくさんの人と楽しい時間を過ごせたことをとてもうれしく思う。

（看護学科三年　片桐寛子）

「日本について考える機会」

オーストラリア研修は、私に日本のことを改めて考える機会を与えてくれました。オーストラリアで過ごす中で、日本で当たり前と思っていたことがそうではないという体験をいくつもしました。施設見学や講義では、医療制度や各分野における仕事内容の違いなどを学び、ホームステイでは、生活環境や習慣から価値観までそれぞれに違いがあることを知りました。外の世界を見たからこそ、日本の良いところも悪いところも見えてきたように思います。

色々な人たちと出会い、たくさんの事を学び、遊ぶことで、一生忘れることのできない充実した毎日を過ごすことができました。そして、今後につながる貴重な経験となりました。

（看護学科三年　金井みぎ和）

▲Tricave Retirement Village の前で

看護三年　片桐寛子
金井みぎ和
齋藤博子
（サブリーダー）
松成紀子
（リーダー）
看護二年　川村浩美
菊地千恵子
言語三年　鹿野佑美
放射二年　藤生明美
引率　清水慶昭

引率者から

オーストラリアの現在の平均人口比率は老人、成人、子供が同程度ということだが、研修地のゴールドコーストは年中温暖な気候条件もあるのか老人比率が日本のそれよりも大きい完全な逆三角型だという。老人や患者は可能な限り自宅で自立的に過ごす、そのために必要なサービスを提供するという思想でオーストラリアの医療福祉制度が貫かれていることが印象的だった。

オーストラリアの医療福祉事情を学び、幾つかの施設や病院を見学する研修を通して、学生達は日本の医療福祉事情との違いを新鮮な目で受け止めていた。グローバルな視点で物事を見るきっかけを掴んだのではないかと思う。

（放射線・情報科学科　清水慶昭）

アメリカ

「米国の医療の光と影」

米国の海外保健福祉事情の研修は、午前中は米国の医療、福祉制度の講義。午後は病院、老人保健施設等の見学などの超過密スケジュールをこなす。米国の病院はサービス業としての性格が強く。患者さんの体に悪い影響を与えない限り出来る限り患者さんが快適に過ごせるよう心がけているらしく、ある小児病院では任天堂の大きなゲームマシンが何台か設置されていた。その一方では、保険の適用が厳格で長期間の入院が許されないためリハビリのスケジュールが窮屈で患者さんも苦しそうだった。二週間の短期間ながらも米国の医療の光と影の両面を感じた。

（理学療法学科二年　吉川幸次郎）

▲現地実習にて

「米国の医療制度を学んで」

アメリカでの海外研修は、観光旅行では見ることができない病院の見学や、病院のリハビリ室に勤務する理学療法士の先生からアメリカの理学療法士についてのお話を聞けた事、アメリカの医療制度とそれに携わる医療従事者についての講義を受ける事ができたので充実した海外研修だったと思います。約二週間という研修期間の中で一日一日が今まで知らなかった事を多く学べるチャンスであり、学んだ事を吸収して帰ってくる事ができたので、海外研修に参加する事ができて勉強になったと思っています。

（理学療法学科二年　今井祐子）

▲現地での授業風景

引率者から

語学教育センター
George C. Cota

L.A-"The Family"

We were all a bit tired but even more excited when we finally touched down at Los Angeles International Airport. The nine students were wondering about both their training schedule and their fun-time activities. But mostly they were excited about their first trip outside of Japan. I, on the other hand, was nervous about chaperoning nine young adults around my hometown of L.A. Would they work hand? Where would they want to go? Would they get along well together? We all looked forward to two weeks of study and shared experiences.

To my surprise and delight the students took the opportunity to shine in every way. Every day all ten of us woke up bright and early for breakfast and morning class. In the afternoons We visited the most prominent medical facilities in Southern California. In the evenings and on weekends we played, shopped, and visited many of L.A's numerous landmarks.

We leaned together, and laughed together. Even when we weren't all together, I knew that they would look out for one another. Not just as 'Buddies', but as brothers and sisters. When one of us felt tired or sick, We took care of each other. We gave each other new nicknames(Top-Secret!).

We even found a 'distant cousin', who became part of our little group. At the end of it all we found that, almost by accident, we had become very close to one another. At places like Universal Studios (The Mummy's Tomb!),Dodger Stadium (Gambare Ishii!), the Grand Canyon, Tijuana Mecico and even singing in the parking lot at 'The Cheesecake Factory, we became a family.

I saw the students the other day here no campas. They were hanging out together, talking about next term's classes and such. They ran over when they saw me. For a minute we were back in L.A., happy to be together again. Some people might say that feeling can't last, that we can't stay a 'Family' forever. I guess I'm different.

I say we can.

▲終了証を手に

看護三年　山岸弥生
（リーダー）
看護二年　石山学
神子恵理加
関口裕美子
安原聡美
（サブリーダー）
吉成真美
渡辺春美
理学二年　今井祐子
理学二年　吉川幸次郎
引率　ジョージ・C・コータ

中国

「中国語でコミュニケーション」

中国で出会った人達は明るく親切でした。病院実習は主に見学でしたが、一つ一つのことに驚いたり感心したりするばかりでした。片言の中国語で患者さんとコミュニケーションがとれるととても嬉しい気持ちになり、お互いの気持ちが通じ合う素晴らしさを実感できました。中国では患者さんのそばにいつも家族の方が付き添っているのが当たり前で、一方で家族の絆の強さ・思いやりを感じ、もう一方でこの裏にある看護上の問題や社会問題の存在に気づかされるなど、本当にたくさんのことを学びました。中国で過ごした二週間での経験を今後に生かしていきたいです。

（看護学科二年　渡邉　優）

▲みんな揃ってはいチーズ

「活気あふれる街」

まず驚いたことは、交通量の激しさと交通の荒さ。この国には「ゆずりあい」、「ありがとう」という言葉が存在しないのかと思うくらい、歩行者も車両も強引だった。日本の田舎から出てきた私たちにとっては、充分なカルチャーショックだった。

中国は、交通もだが、街全体に活気があふれている印象をうけた。ホテルの人も、レストランの人も、病院で働く人も、皆仕事熱心であるように思った。中国はものすごい勢いで発展をとげていると耳にするが、それは中国の労働者の意欲が高いことも影響しているのではないかと思った。

（看護学科二年　福田麻衣）

▲北京按摩医院にて

看護二年　石澤正彦
（リーダー）
伊藤　望
広瀬　愛
（サブリーダー）
福田麻衣
冬室美和
宮川理恵

山形泰士
渡邉　優
理学二年　玉置広香
吉田美幸
理学三年　山本祐子
渡邉珠美

言語三年　梅津絵里子
直井理恵
放射二年　玉置広香
福祉二年　岩上智絵
引率　手塚明美
黒澤和生
古川昭人

引率者から

中国リハビリテーション研究センターは、一九八六年から一九九三年までの七年間JICAプロジェクトで設立されたリハの臨床、研究、教育を手がける中国最大の総合リハ医療施設である（障害者福祉を担う中国障害者連合会の直属の機関）。二〇〇一年十一月からリハビリテーション専門家養成プロジェクト（五年間：PT、OTの四年制教育）が開始され、本学の教員も専門家として参加している。

研修期間中は、中国側の配慮から様々な体験をさせて頂き、湯主任をはじめ、センターの職員の方々に改めて感謝を申し上げたいと思う。二週間の異文化交流は、盛りだくさんの内容であり、帰国してから新たな自分に向き合い、何かを追い求める心の源泉となって欲しいと願っている。

（理学療法学科　黒澤和生）

ベトナム

「ベトナムは…」

私達十六人と先生一人は七月二十九日の深夜にベトナム空港に降り立った。空港の警備員はとても怖い顔で、十七人の美しい笑顔には無関心だった。ここから私達のベトナム生活は始まった。空港から出るとまず湿度の高さに驚いた。「これがベトナムかぁ～」と思った。そしてバスに乗り込む。スーツケースも同じ座席に乗った。非常に狭い。出発。「本当に来たんだぁ」という実感が匂いでわかった。とても臭い。これが第一の「二週間やっていけるのか心配病」だった…。

研修初日から私達は第二の心配病になった。ベトナムの道路は左右前後斜め前斜め後ろどこからでもバイクが来る。バイクだけではない。シクロ、車、自転車、物売りなんでも来いだった。目がいくつあっても足りない。初日はかなりの時間をかけて病院に行った。この研修で最も自信につながったのはベトナムならばどんな道路でも渡れる、というものだったと思う。最後の頃は本当にこんな日が来るとは思えなかった、と感動する程だった。皆ベトナムの道路のプロになっていた。（日本では通用しない！）

病院での毎日はとても勉強になった。何より病院のスタッフはとても優しい。患者を放ってまで（？）私達に尽くしてくれた。アオザイを作る時もICUの婦長（師長）さんのお陰で困る事無く出来上がった（しかも安い！）。PTでは歌を歌ったり折り紙をしたり患者さんと話したり…。（注：不真面目なのは私だけ）小児では物が無くなったり（笑）。とても良い研修だった。観光もクチトンネルやメコンデルタなどいろいろな所に行き、また分達もタクシーで市場など思い思いの場所に行った。でも私達は思う。ココナッツジュースはあまりお勧めではないと…。一度試しに行って飲んでみてくれれば分かる。決してお勧めはしない。経験したい人のみお試しあれ！！

こんな二週間だったが最後に一言「ベトナムは本当にいいぞ！！！！」

（看護学科四年　水井衣子）

（看護学科四年　橋詰良子）

▲実習風景

▲地方病院（ティンジャン病院）の訪問

看護四年　音道裕香子
橋詰良子
水井衣子
看護三年　大野温美
松橋野笛
看護二年　萩原敦子

相馬友絵
西田千寿子
（リーダー）
早野真理
山田史子
理学二年　吉岡美保
加藤美智子
北出清華

（サブリーダー）
作業三年　糸井きく
寺澤佳子
放射三年　飛澤怡美
引率　山口光治

引率者から

「引率を終えて」

わずか二週間であったが、ベトナムの医療や生活、文化について、他人の目を通さず、学生自身で「現場の空気」を感じることができたことは、この研修活動の大きな成果ではないかと思う。目に映るものはもちろん、臭いや音、温度や湿度、人々とのふれあいなどは、現場に行かなければ感じ得ない。チョーライ病院でのボランティア活動、病院職員やその家族・友人との交流、地域探索などは、様々な異文化体験をもたらし、知的好奇心をおおいにかきたて、学生個々の成長の糧となったのではないだろうか。

（医療福祉学科　山口光治）

▲出発前の結団式
とても意欲に満ち溢れた笑顔が大変印象的でした

「ボランティア」の名の通り、学生たちが自発的に毎年夏休みを利用し、現地の医療スタッフの指導の下、患者さんのケアの補助やスタッフのお手伝いをしたり、直接医療の現場にふれ、貴重な経験を積んでいます。今回の報告にもあるように、今年も大いに成果を上げました。

この国海外研修ボランティア活動は現在、「海外保健福祉事情」という認定科目で総合教育科目のひとつになっており、大学としてもより充実したサポートをしています。

ますますこの海外ボランティアが発展することを願っています。

学生委員会・学生課より

学生の生活安全推進について

より快適で、実のある学生生活を実現するために、本学では学生生活安全推進に関して、以下のようなことを検討・計画（一部実施済み）しておりますので、お知らせします。

1．**学生の安全意識の醸成**

「自分の身は自分で守る」のを基本原則と考え、学生の皆さんに以下のような働きかけを検討・計画中です。

①昨年配布した「安全生活マニュアル」を学科ごとに再度読み直し（実施済み）

②「生活要注意７か条」の作成、印刷物等に掲載

この他、15年度初めには大田原警察による防犯講習会も計画中です。

2．**大学構内の安全対策の実施**

大学構内とはいえ、完全に安全とは言い切れません。そこで以下のような対策を検討・計画中です。

① 照明の増設（一部実施済み）

② パトカーによる大学構内巡回

③ 校舎内の廊下の21時までの点灯

3．**学外関係者への働きかけ**

地域の関係団体等への働きかけを進めています。

① 大田原市に対し、市内の街灯の増設

② 大田原市の自治会に対し、学生の安全への配慮

③ 地域の不動産業者に対し、アパートの安全設備の向上

④ 警察に対し、市内の夜間パトロールの強化

なお万一、何かの被害にあった場合には、学生課に被害状況を届け出る（生活トラブル報告書）ようにしてください。また、被害に関することは、担当者がお話を伺いますので、お気軽にご相談ください。＜上の文章に加えて、「生活要注意７か条」＞

生活要注意７か条

ー犯罪被害に遭わないためにー

1．夜間の一人歩きはしない
（暗くなってから帰る時は友人などと一緒に帰ること）

2．深夜に及ぶアルバイトはしない

3．帰宅したら直ちにドアを施錠する
（ドア・チェーンも忘れずに）

4．来訪者が来た場合にはのぞき窓等で相手を確認する
（不用意に開けないこと）

5．夜間は雨戸やシャッターを閉める
（特に１階に居住している場合）

6．露出度の高い服装は避ける（特に夏季）

7．洗濯物の干し方には注意する（特に下着類）

自分の身は自分で守ろう！

■■ 学生相談室だより ■■

大学には、学生相談室というみなさんが利用できる施設があります。いらしたことのない方も多いと思うので、今回は案内を少し。

相談室は、レストラン棟となりのL棟一階にあります。就職情報コーナーを入って、学生課窓口の前まできて右方向へ。まっすぐ進むとドアの所に小さな案内があります。相談室の入り口は左側にある通路のつきあたりです。ちょっと分かりにくい場所なのですが、近くに来ることがあったら見にきて、まずはドアをノックしてみてください。（スタッフが少ないので席を外していることもありますが、その時には入り口に案内を出しています。）

生活の中では、自分ひとりで抱えているのは大変だなということが時にはあると思います。そんな時には、誰かに相談してみてください。相談室のカウンセラーは、みなさんが自分のこころに触れて、自ら考え、問題に取り組んでいくお手伝いをしていきます。また、自分を客観的に見つめてみるということで簡単な心理テストをすることもできます。

まずは、ちょっと勇気をだして声をかけてみてください。

～お気軽にご利用ください～

開室日時
月・水・金曜日
１０：００～１３：００
１４：００～１７：００

スタッフ
小林 真理子（月・金 担当）
木下 愛子（月・水・金 担当）

受付・予約
Ｌ棟１階、学生相談室まで
TEL 0287-24-3099

同窓会からのお知らせ

学科会・支部会のご案内

今年度の事業計画に則り、各事業を進めているところです。今年度の学科会・支部会の活動も八月に言語聴覚障害学科会が開催されたのを皮切りに、十月～一二月に集中して各学科会が開催されるようです。マロニエ会としても、学科会・支部会活動の支援に重点的に力を入れていきたいと考え、今年度からは活動に対する助成金も増額し、活動に対する参加者の人数に応じた助成金が受けられるようになりました。学科会・支部会開催前には、各会に所属されている同窓生のお手元にご案内状が届けられます。是非、活動にご参加いただき、学科会・支部会を盛り上げていってください。

・・お願い・・

各種ご案内状を送付いたしましても、転居先不明等で戻ってきてしまう場合がございます。大学及び同窓会事務局に登録されている現住所（勤務先）等に変更がございましたら、左記までご連絡いただけますようお願いいたします。

国際医療福祉大学同窓会会長
鈴木康文（理学療法学科一期生）

同窓会
「マロニエ会」事務局

〒３２４－８５０１
栃木県大田原市
北金丸２６００－１
TEL：
０２８７－２４－３００３
FAX：
０２８７－２４－３１４０
e-mail：
office.maronie@iuhw.ac.jp

入試課からのお知らせ

入試区分		試験地	入学試験日	
			保健学部	医療福祉学部
高校推薦入試		本学	平成14年11月16日（土）	
留学生・帰国生徒入試				
社会人特別選抜入試		本学	平成14年12月14日（土）	
一般入試前期	A日程	本学・仙台・東京・熱海	平成15年2月3日（月）	平成15年2月4日（火）
	B日程	本学・東京・名古屋・福岡	平成15年2月6日（木）	平成15年2月7日（金）
センター試験利用入試		—	個別学力検査等は課さない	
一般入試後期		本学	平成15年3月4日（火）	平成15年3月5日（水）

※一般入試前期日程のＡ日程およびＢ日程はそれぞれの出願書類を提出することにより、同じ学部で２回、学部を変えれば最大４回まで受験できます。

※一般入試とセンター試験利用入試もそれぞれの出願書類を提出することにより併願することができます。

★大学来訪者（２００２年度前期）

4/10(水)	読売新聞社
4/30(火)	都築学園
5/ 8(水)	フィリピンタラ村学生(栃木ＹＭＣＡ)
5/14(火)	中国リハビリテーションセンター
5/17(金)	鈴鹿医療技術大学学長、病院管理研究所、大城クリニック
5/22(水)	日本病院会、福島県立白河旭高校生徒
5/23(木)	財務省、文部科学省、大田原中央ロータリークラブ
5/24(金)	栃木県立田沼高校ＰＴＡ
5/29(水)	栃木県立日光高校教員
5/31(金)	日本製薬工業協会
6/ 1(土)	福岡県大川市長、助役、教育長
6/ 7(金)	栃木県総合教育センター
6/11(火)	茨城県立総和高校生徒
6/13(木)	アジア婦人友好の会
6/14(金)	茨城県立筑波高校生徒
6/18(火)	自治医科大学
6/19(水)	栃木県土地利用対策課
6/20(木)	矢板市立矢板中学校生徒
7/ 4(木)	栃木県立氏家高校生徒
7/10(水)	足利銀行日向野頭取
7/30(火)	熱海市町内会長連合会、東京女子医科大学
8/ 6(火)	自治医科大学附属病院
8/ 7(水)	東芝那須工場、社会保険庁
8/20(火)	栃木県シルバー大学校中央校
8/22(木)	栃木県都市助役会議
8/24(土)	栃木県保健福祉部、みずほ銀行、三井住友銀行、静岡銀行、福岡銀行
8/27(火)	宇都宮大学学長
9/13(金)	ISO/TC173/WG1（歩行補助具に関する国際規格の会議)メンバー
9/17(火)	カゴメ株式会社
9/19(木)	市原市歯科医師会介護訪問部会
9/26(木)	三井住友銀行、黒羽町立蜂巣小学校児童
9/30(月)	栃木県高等学校教育研究会商業部会

「私が感銘を受けた本」第１９回

紹介者:語学教育センター　柴田知薫子
書　名:菜根譚
著者名:洪応明(洪自誠)　石田欣二訳
出版社：文芸社

400年ほど前の明朝末期に、儒教・道教・仏教の教えを実行可能な教えとして通俗化し、人々に奨励するねらいで書かれた格言集のようなもの。競争社会に巻き込まれる危険を示し、世の中と一線を画する処世法を説く。作家・猪瀬直樹氏によると、三島由紀夫は自決する少し前にこれを読んでいたらしい。その傍線箇所「お世辞でよろこばれるより、一本気でイヤがられるがまし。無能でほめられるより、無実でそしられるがまし。」は、三島流美学の一端を照らす。

岩波から文庫版、講談社から漫画版が出ている。

図書館の大谷総長著書の右側の書棚に置きます。
ご愛読下さい。（図書館長）

平成14年度 看護学科公開学習会のご案内

講　師：**国際医療福祉大学**
看護学科長　中西睦子

日　時：平成14年11月2日（土）
10:30～12：00

テーマ：「変革理論」－現状は変えられる－
看護現場のさまざまな問題に前向きに取り組み、より良い看護サービスを生みだすために、戦略的に考えるための基礎的理論を学ぶ。

会　場：国際医療福祉大学(F-101)

大学主催説明会「特別講演会および懇親会開催」のお知らせ

下記日程にて、卒業生、在学生保護者の皆様を対象とした特別講演会および懇親会を開催します。

医療福祉の現状をわかりやすくお伝えするとともに、卒業生、保護者の皆様と本学教員を交えた、有意義な交流の場にしたいと考えておりますので、是非お誘い合わせの上ご参加下さい。

なお、当日は１３時３０分から１６時００分まで同会場にて本学の入試相談会を開催します。医療・福祉および本学にご興味をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非ご案内下さい。なお、熱海会場では受験生対象の入試相談会を下記日程で開催します。

地　区	会　　場	開　催　日	地　区	特別講演会講師およびテーマ
東　京	入試相談会・特別講演会 山王ホール(山王病院３階) 東京都港区赤坂8-10-16 懇親会　ハートイン乃木坂 東京都港区南青山1-24-4	10月27日(日)	入試相談会 13:30～16:00 特別講演会 16:30～17:20 懇親会 17:30～19:30 東京・仙台・名古屋・福岡共通	副学長・医療福祉学部長・医療経営管理学科長 開原　成允 「病院経営と情報化を取り巻く最近の状況」
仙　台	入試相談会・特別講演会・懇親会とも ＫＫＲ仙台 仙台市青葉区錦町1-8-17	11月２日(土)		言語聴覚障害学科長 伊藤　元信 「リハビリテーションの現状と今後の展望」
名古屋	入試相談会・特別講演会・懇親会とも 名古屋栄東急イン 名古屋市中区栄3-1-8	11月２日(土)		保健学部長・作業療法学科長 杉原　素子 「心のバリアフリーをめざして」
福　岡	入試相談会・特別講演会・懇親会とも 福岡国際医療福祉学院 福岡市中央区長浜1-3-1	11月９日(土)		理学療法学科長 丸山　仁司 「リハビリテーションの現状と今後の展望」
熱　海	受験生対象入試相談会 ホテルリゾーピア熱海 熱海市東海岸町13-93	10月26日(土)	10:00～14：00	

教員紹介

①所属・職位②生年③出身校④専門分野⑤直前の勤め先⑥主要著書または論文⑦本校における担当科目⑧趣味

日高　陵好　（ひだかりょうこ）
1．看護学科講師
2．12月　山羊座
3．ニューヨーク州立大学大学院
　ストーニーブルック校
4．母性看護学・助産学
5．バークシャーメディカルセンター
　（米国）
6．Japanese Midwifery, yesterday and today
7．母性看護学
8．仕事、水泳、映画、最近カラオケが加わりました。

村松　由紀（むらまつゆき）
1．看護学科助手
2．10月29日　蠍座
3．国際医療福祉大学医療福祉学研究科
　保健医療学専攻博士前期課程
4．小児看護学
5．那須郡医師会職員
6．看護師の死生観がターミナルケアに及ぼす要因分析
7．臨床看護実習小児領域
8．モータースポーツ

学科・センターだより

◆大学院だより

「院生募集要項公開中」

前回予告した「マスコミ研究会」の第一回例会がさる七月十五日に東京の記者クラブで開かれました。錚々たるジャーナリスト達と個性豊かな社会人学生たちとの初々しい交歓の日でした。

来年度の院生募集要項が公開されています。一般入試、社会人入試、留学生入試の三つの窓口がありますが、希望者がいれば東京会場や福岡会場でも実施するなど、臨機応変の態勢になっています。社会人入試は、去年は随時入試というかたちを取りましたが、ことしはその精神を残しながらも一応の標準日程を五回設け、その他は志願者の都合に合わせて微調整をはかることになりました。

今度の募集要項には、研究指導教員一覧という新しい頁が加わっています。指導教員ひとりひとりについて、授業担当領域と研究指導テーマ、それに連絡先の電話番号とメール・アドレスが公開されています。志願者が事前の相談相手や指導教員を選ぶのにこれらを役立ててほしいという願いからです。焦点を絞ることができない人のための最初の相談窓口は「分野責任者」です。

（鎌倉矩子）

◆看護学科

「ＣＡＴⅣ撮影体験」

八月五・六日の二日間、看護学科ではＣＡＴⅣの撮影が行われました。ＣＡＴとは、Computer Assisted Thinking の略語で、コンピューター上で疑似臨床場面を表示し、その後の質問に学生が解答するというシステムですが、その特徴は学生の思考を高める記述式解答のシステムだということです。現在までにⅠからⅢまで作成し、ＣＡＴⅡは看護過程の学習教材として使用されています。このシリーズの第四弾がＣＡＴⅣで、今回は「看護援助を支える理論の学習」を目的としました。前回までと同様、出演者は大部分が大学関係者です。慢性期患者の生活指導場面など、実際に看護師として経験していた場面ではありますが、撮影となると異様な緊張感が漂い、覚えたはずの科白（せりふ）もしどろもどろ・・・でした。

（須田利佳子）

◆健康管理センターだより

「平成十三年度健康管理白書について」

平成十三年度の定期健康診断の結果に基づく健康管理白書がまとまり、現在印刷中ですが、平成十二年度と同様、学生、教・職員ともに過体重・肥満、高脂血症などの生活習慣病予備群が目立っています。健康診断の際に行った生活習慣アンケートによれば、運動不足が大きな原因の一つになっています。これは自動車による通学・通勤が大きく関係していると思われますが、通学・通勤時以外はなるべくよく歩き、エレベーターを使わないなどの努力をお勧めします。

学生の場合は外食が多いという回答ですが、どうしても自分の好物ばかりを選んだりして、栄養の偏りが生ずる傾向にあるので、気をつけましょう。

（谷　禮夫）

◆基礎医学研究センター

「二十世紀科学のうねり」

二十世紀の最大の発見はフレミングのペニシリン、アインシュタインの相対性原理、そしてワトソン・クリックのＤＮＡと言われます。たしかに最初の二つはそれまでの人類の敵であった細菌の感染症に画期的な治療法をもたらし、またそれまでの科学思想を根底からくつがえし、場合によっては、世界認識そのものまで変えました。ＤＮＡの場合はどうでしょうか。二十世紀後半になって発見されたＤＮＡの構造は人間の存在を他のどんな生命体とも差別できない分子機械としての位置づけを可能にしようとしています。ＤＮＡ操作で人間を変えることは理論的に可能になりました。老化や死の遺伝子を破壊して長生きしようとしたり、自分の部分的クローンを作って移植のための臓器を作ったり、記憶力や体力を向上させる遺伝子を、しかも生殖細胞レベルで永続的なＤＮＡの改造をするのも夢物語ではありません。

出来ることは必ずやってしまおうとするのが人間の性（さが）ですから。人類の福祉だけを至上の目的としてきた人間が、いまさらそれを禁止する理由をどうして見つけましょうか。むずかしくても急いで見つける必要があります。

（嶋田裕之）

◆語学教育センター

「効果的なプレゼンテーションをめざして」

英語科では必修授業の締めくくりとして、二年生全員にスピーチ、発表する演習を課しています。時間、準備等の制約を考慮し、名演説と言われている有名人のスピーチを借り、その内容を十分に理解し、いかに効果的な、自分らしいプレゼンテーションをするかという訓練です。各クラスでのスピーチ演習を前に、毎年表現方法についてのワークショップを行ってきました。今年は新しく導入されたビデオ・オン・デマンド（ＶＯＤ）を利用して、英語科教員によって録画されたワークショップ映像を、学内のパソコンにて自主的に、繰り返し学習していただくことになりました。南井、ダブス、コータ、ギグリック先生による、目線、手振り、姿勢、体の向きなどの効果的な体の使い方、声の高低、音量、速さと間の取り方、全体の外見などについてよく学び、印象的な発表をしてクラス代表となり、学長杯スピーチコンテストに出場してください。学内の皆さまもＶＯＤ映像をご覧になり、ご意見をいただきたく思います。

（田中美子）

部会・委員会報告

◆言語聴覚センター

「難聴学童の夏季発達相談会」

夏休みの恒例企画も、今年で六回目。対象は小学生から高校生までの難聴学童・学生です。聴覚検査や各種言語発達検査等から現在の状態を評価し、個々に応じた相談・指導・補聴器の調整を行います。結果は各学校にもご連絡し、指導に役立てて頂きます。今年度も三十名を超える参加者がありました。

就学後は幼児期とは違う問題が現れ、相談内容は学校・家庭での生活全般について多岐に渡ります。一年ぶりに訪れるかたも多く、確実に成長している様子に驚きつつ嬉しく思います。パワー全開の彼らを迎える私達も体力勝負。夏バテする暇もなく、会が終わると一気に秋を感じます。

（鬼越美帆）

◆図書委員会

「図書館の改革へ向けて」

これまでも、図書館関係者の努力で、電子メディアが使えるようになるなど、図書館も大変よくなってきました。しかし、開学以来七年を経て、学科増設などにより学生数も増加し、また大学院も充実したために、図書館も変革が必要になってきたように思います。

そのため、本年度の図書委員会では、図書館の現状と問題点をあらためて討議し、いくつか問題が浮かび上がってきました。その主要なものは蔵書の問題、スペースの問題、サテライトキャンパスの問題などです。

秋からはこの解決策を作っていきたいので、ぜひ図書委員にご意見をお寄せください。今年は、図書館が変わったというようになることを願っています。（開原成允）

◆国際部・国際交流委員会

一、「海外保健福祉事情」科目、「海外研修・活動」の結団式、壮行会および新聞記者への発表が七月二十七日に行われました。一行は七月二十九日に中国、ベトナム、米国、オーストラリアそれぞれの研修地に出発し、有意義な研修を終え、八月十二日に全員無事帰国しました。詳細は特集記事をご参照ください。

尚、全学向け「報告会」を十月八日（火）六時限にＥ一〇一にて開催しました。

二、笹川記念保健協力財団主催「国際保健協力フィールドワークフェローシップ」の国内研修（八月八、九日）に各学科から一（計七名）、海外研修（八月十～十八日）に鳥羽肇君（作業四年）が参加し、フィリピンでの有意義な研修をさせていただきました。

三、ＪＩＣＡケニア医療技術教育強化プロジェクト終了時評価調査団の一員として九月十九日～二十八日の十日間、細井（情報教育センター）がナイロビにて調査活動に参加しました。

（梅内拓生・細井良三）

◆教務委員会

平成十五年度からカリキュラムが一部変更になります。

カリキュラム改編は四年ごとに行われ、平成十一年度に続き今回は二回目です。主な変更点は以下の通り。

一．放射線・情報科学科の指定規則改定に伴う本格的な見直しのほか、各学科でも小変更があります。

二．総合教育科目では、新しい科目として「死生学概論」、「ボランティア論」が設けられ、従来の保健体育は「健康科学」となって、体育祭参加や運動部での活動など所定の条件を満たせば単位取得が可能となります。また、留学生に対する日本語の科目を充実させました。

三．学科間の連携を深めるために複数の学科がチームで実習する「関連職種連携実習」を新設しました。

（飯沼一浩）

◆紀要委員会

「大学院生の論文受付を検討」

第四回、第五回および第六回紀要委員会をそれぞれ七月十七日（水）、八月二十一日（水）および九月十八日（水）に開催いたしました。紀要委員会では本学大学院生の研究論文の掲載を検討しております。本学に大学院博士前期課程、博士後期課程が開設されて、多様な研究が若い力で進められており、両課程を合わせると相当数の研究成果があります。これらの研究に対して紀要は発表の場を提供する任があると思うのですが、いざ実施となると、発行時期や論文審査、著者の在籍など考慮すべき事項があり、検討中ということであります。

（野原功全）

編集後記

大田原も本格的な秋を迎えました。大学の窓から見渡せる那須連山も、時には雄々しく時にはやさしく表情を変え、私たちの目を楽しませてくれています。

今回のＩＵＨＷは、「地域に根ざす」というテーマで取り組みました。思っていた以上に若い力が地域に根ざしていることを知り、うれしく感じました。カフェあり、ボランティアあり、お祭りあり。場所やきっかけは違っても活動している人達の顔は生き生きと輝いて見えました。

学生として、地域に情報発信をし、地域の中で信頼され愛される存在となる。学生と地域とのハーモニー。

「地域と共に歩む大学」・・・大田原を巣立っていった多くの先輩方の思いが、脈々と後輩たちに受け継がれていることを実感した特集となりました。

（看護学科　阿部智恵子）

メディア室からのお知らせ

新学期がはじまりキャンパス内にまた活気が戻ってきました。

メディア室では、ボランティア、サークル活動など、皆さんの周りの情報を集めるべくメールアドレスを設置しております。よい情報がありましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。いよいよ大学祭です。詳しい情報は大学ホームページで随時更新していきますのでご期待下さい。

メールアドレス
media@iuhw.ac.jp

ＩＵＨＷクイズ　～第３３弾～　当選者発表

前回のクイズはいかがだったでしょうか。夏休み期間中ということもあり今回、解答者数はいつもより少なかったようです。

今回は、残念ながら当選者はいませんでした。

＜前回の問題＞

1．世界中の人が楽しんでいる映画ですが、現在一般的に言われている発明者は誰でしょう。
　a.グラハム・ベル　b.フランクリン　c.エジソン　d.スチーブンソン

2．日本で最初の映画が上映された年は何年でしょう。
　a.1830年　b.1867年　c.1899年　d.1917年

3．アカデミー賞（オスカー）には主演男優賞、美術賞などたくさんの賞がありますが、これまでにオスカーでもっとも多くの賞を獲得した映画作品は次のうちどれでしょう。
　a.タイタニック　b.風と共に去りぬ　c.シンドラーのリスト
　d.サウンドオブミュージック

解答
1．c
2．c
3．a

部・サークル紹介 ～第4弾～

夏休みも終了し、学内に活気が戻ってきました。今回は、皆さんもグラウンドなどで練習をしている姿を見たことがある、二つの元気な運動部に取材をしてきましたのでご紹介します。

ーラクロス部ー

（写真左）
部長　都丸舞子さん
（写真右）
主将　高田尚子さん

ー学科・学年・名前をお願いします。

（高田）主将をしています、看護学科三年の高田尚子です。

（都丸）部長をしています。看護学科三年の都丸舞子です。

ー毎週何曜日にどこで練習をしているのですか。

（都丸）水曜日と金曜日の四限終了後、土曜日の八時から十一時半ぐらいまで、それと朝練を火曜日に大学のグランドで行っています。

ーラクロスのルールを教えてもらえますか。

（高田）ラクロスはサッカーコートと同じぐらいの広さでハンドボールより小さめゴールを使い、ゴールキーパーを含めて一二人で試合を行います。ルールはサッカーと似ており、サッカーボールをクロスを使って空中と陸上を利用して行うと思ってもらえれば良いと思います。

ーラクロス部に入ろうと思ったのはなぜですか。

（都丸）私は部の見学に行ったときに少しやらせてもらったのですけれど、はじめてラクロスというスポーツをしてとても楽しかったことと、先輩たちがとても面白い先輩方だったので、ラクロスをしようとおもいました。

（高田）ユニホームがすごくかわいいことと、説明会に行ったときに先輩たちがやさしく丁寧にラクロスについて教えてくれたので入りました

ーどんなところが魅力ですか。

（都丸）チームプレーが大切なスポーツなのでみんなとプレーしてそれで勝利を勝ち取ったときなどのよろこびがあるというのがラクロスの魅力だと思います。

ー試合はどこで行われるのですか。

（都丸）私たちはラクロスの東北リーグに所属しているのですが、仙台のほうで練習試合をしたり、リーグ戦を仙台やこの大学で行ったりしています。

ー最後に一言お願いします。

（都丸）とってもかわいいユニホームで。とても楽しいスポーツです。私たちと一緒にラクロスをしませんか、待っています。

（高田）ほかの大学の人ともいっぱい友達になれるので、ぜひラクロス部に入ってください。

▲ぜひラクロス部に入ってください。待ってまーす。

ーラグビー部ー

（写真右）
主将　小島　歩さん
（写真左）
主務　伊藤文則さん

ー学科・学年・名前をお願いします。

理学療法学科二年の小島歩です。理学療法学科二年の伊藤文則です。

ー代表が二名いますが。

（小島）僕が主将、キャプテンとして練習や試合などで声を出してチームをまとめるようにしています。

（伊藤）自分は主務という役割をしており、主にラグビー部の外見を固めるという形の仕事をしています。

ー現在何名で活動しているのですか。

（小島）三、四年生を合わせると三十人強います。現在三・四年生が忙しいので、今のところは一・二年生を中心に練習を行っています。

ー練習はいつ行っているのですか。

（小島）大学のグランドで火曜日、木曜日、土曜日に練習を行っています。

ー試合には参加しているのですか。

（伊藤）栃木県のリーグに所属しています。三部リーグでリーグ戦に参加し、春と秋に試合を行っています。

ーリーグ戦は何チームで行われるのですか。

（伊藤）栃木県の三部リーグには四チームから五チームが所属し、お互いに競い合っています。

ー今までの大会での成績を教えてください。

（小島）去年の春は全勝で優勝をしましたが、今年はここにいるほとんどが初心者ということもあり負けてしまいました。秋には盛り返し全勝で優勝するつもりです。

ーラグビーの魅力を教えてください。

（伊藤）倒れたとき、大地との一体感を感じられることと、十五人でボールを追っているときの連帯感を感じられるところが魅力です。

ー部員の皆さんの仲はどうですか。

（小島）見てのとおりみんなからだが大きいので集まっているとむさくるしいと感じるかもしれませんが、とても仲が良く部内の雰囲気はとても良いです。

ー今後の大会に向けての意気込みをお願いします。

（伊藤）チーム一丸となって、まずはじめに何とか一勝したいと思います。

ー最後に一言お願いします。

（小島）週三回、短時間で密度の濃い練習をするのを目標にしていますので、それほど、練習がきつくはないと思います。とても楽しいスポーツなのでぜひラグビー部に来てください。

（伊藤）ぜひ、ラグビーの素晴らしさを知っていただきたいと思うので見学に来てください。

▲グラウンドで待っています。練習を見学に来てください。

（取材へのご協力ありがとうございました。）

IUHWクイズ　―　第34弾　―

大気汚染や地球の温暖化などの問題が気になります。ヨーロッパやネパール、インド北部の豪雨、パキスタンやアフガニスタンの旱魃なども地球温暖化の影響でないかと考えられています。

そこで今回は地球についての問題です。

1．地球をグレープフルーツの大きさにたとえると、地表をおおっている大気の厚さは？
　a.10ミリ　b. 5ミリ　c.1ミリ　d.0.5ミリ　e.0.1ミリ

2．地球上の酸素の何％がアマゾン川流域の熱帯雨林で作られているか？
　a.10％　b.20％　c.30％　d.40％　e.50％

前回当選者がいなかったため
抽選で２名の方に旅行ギフト券をプレゼント！解答を記入の上事務局窓口外側のメールボックスに投函してください。なお、締め切りは11月15日です。

解答用紙
学籍番号　　学年
名前
解答
1.
2.